

令和 7 年度第 2 回宮代町立小・中学校一貫教育推進委員会の
会議録

1 日時・場所

令和 8 年 3 月 5 日（木） 15：00～16：10

役場庁舎 202 会議室

2 出席者

審議会委員：13 名出席

木村由美子副委員長、齊藤嘉保委員、金野泰久委員、竹内知子委員、高野桂子委員、
山口隆夫委員、谷義明委員、栗原利夫委員、石崎徳幸委員（代理 柿沼千鶴子）、
竹田奈々重委員、谷口昌之委員、小澤香保里委員（代理 石井大晴様）、竹澤美紀委員
事務局：島村圭一教育長、加藤裕一学校管理幹兼副課長

3 開会

4 挨拶

島村教育長から挨拶

木村副委員長から挨拶

5 議事

令和 7 年度教育行政重点施策の「中学校区を中心とした特色ある小中一貫教育の推進」
について説明後、各中学校区の実践について資料を基に発表があり、その後、協議を行
った。

木村副委員長：今回は、保護者代表の方から一言ずつお話を伺いたいと思います。いかがで
しょうか。

竹田委員：学校にお任せしていますが、どの先生も子どもを細かく見てくださり、名前を覚
えてくださるなど目が行き届いていてありがたく感じています。中学校が合唱を披露して
いることは聞いていましたが、出前授業をしていることは知りませんでした。6 年生が中学
校の中を見学するなど、校舎見学は行っているのでしょうか。

谷校長：入学後に新しい担任が説明していますが、入学前には行っていません。

金野校長：中学校の担任が入学後に説明する形に変えているところが多くなっています。

竹田委員：中学校の校舎は小学校よりも大きく、威圧感があり怖いイメージがあります。実
際に見学すると小学校と変わらないことが分かり、安心感が生まれると思います。出前授業

を行うことで、進学した際に違和感を持たず、楽しみにつながるのではないかと思います。良い取組だと思います。また、小中一貫教育の取組については、もう少し発信してもよいのではないかと思います。ホームページを見ても細かいところまでは理解できません。こうした取組を知ることで安心感が生まれます。発信していただければ理解が深まり、保護者にも安心感が生まれると思います。子どもを安心して学校に送り出すことにもつながると思います。

木村副委員長：宮代の教育のPRを発信することは、定住にもつながると思います。笠原小学校ができた頃は、行事などをもっと発信していました。良い活動をしているので、発信することは大切だと思いました。

石井代理：校長先生をはじめ先生方がプランを考えてくださっていることは、保護者の立場として大変ありがたいことです。それぞれの取組を聞いても、9年間の教育をしっかり行うことに着目していると感じました。先生方の交流もとても大事ですし、生徒指導も小学校と中学校では違いがあります。小学校6年生が中学校に進学する際にギャップを感じるがありますが、それを解消するための取組をされていることに頭が下がります。

この小中一貫教育は10数年続いていると聞いています。1年生から中学校3年生までの9年間の実績や検証は行っているのでしょうか。各小中学校の取組は報告されていますが、教育委員会として9年間を見据えた成果については聞いたことがありません。教育委員会としてどのように判断し、検証しているのか伺いたいです。

加藤：今後検証を行い、来年度の小中一貫教育につなげていきたいと考えています。

石井代理：保護者の中には、中学校は敷居が高いと感じている方もいます。教育委員会が検証した結果が還元されれば、不安の解消にもつながります。ぜひ検証をお願いしたいと思います。

谷口委員：小中一貫の取組については、もっと周知してよいと思います。知らない保護者が多いと感じます。10数年の実績もありますが、取組の成果がどうだったのかを知りたいと思います。実際に子どもたちはどのように感じているのか、保護者はどう思っているのか、先生方はどう思っているのかを把握することも大切です。今回、須賀中学校区では挨拶の達成率が示されており、高い数値であることが分かりました。このように数値で示されると分かりやすいと思います。数値化することで、成果が見えてくる部分も多いのではないかと感じました。また、中1ギャップについても、このような取組を行ったことで解消されたという点が見えていません。百間中学校区の入学説明会で授業を行った結果、6年生が中学校に進学する際の不安が解消されたといった声はあったのでしょうか。そうした声があってこそ成果につながると思います。子どもたちや保護者に周知し、成果を聞いていくことが大切

だと思いました。

木村副委員長：陸上の合同練習や職場体験など、先生同士や子どもたちの交流の機会はこれから大切になると思いました。

竹澤委員：それぞれの学校区で小中連携が行われていることが分かりました。ただ、この場に参加していないと、一保護者として小中一貫教育を実感することは難しいと思いました。宮代町は自由学区となっているため、百間小学校では4・5年生頃になると、前原中学校に行くのか百間中学校に行くのかを考え始めます。特に女子は早く、部活動の影響も大きいようです。小学校6年生で説明会に参加した際、10人以上が百間中学校に進学することが分ると、前原中学校に進学する子どもたちの意欲が下がってしまいます。自由学区は良い面だけではないと感じました。また、学校からの手紙で地域部活動について知りました。近隣では地域部活動が始まった際、保護者が振り回されたという話も聞いています。小中一貫教育で先生方が頑張ってくださっている一方で、不安な点も多くあります。

木村副委員長：宮代町では地域部活動への移行はどの程度進んでいるのでしょうか。

加藤：先日、各学校にアンケートを配布しました。来年度、協議会を設置して進めていく予定です。

石井：近隣では土日をクラブ化しているところもあります。宮代町がどのように進めるかは分かりませんが、先生方も兼業届を出せば部活動で指導することができます。例えば、土曜日は教職員が指導し、日曜日はクラブとして地域の方が指導するなど、地域だけに頼らない形もあります。プロスポーツチームがある地域では支援を受けられる場合もあります。宮代町には宮代町の良さがありますので、先生方の働き方改革も踏まえ、部活動の改革は必要だと感じています。財源の問題も大きいと思います。

齊藤委員：数値化が大切だと思います。例えば英語の取組を行った結果、中学1年生の英語の成績がどの程度向上したのかを数値で示し、上がった原因や下がった原因を分析することが重要です。また、中1ギャップについても、小学校で不登校だった子どもが中学校で改善したケースや、逆に小学校では問題なく通っていた子どもが中学校で不登校になったケースなどを数値化していただければと思います。さらに、各校の施設の老朽化も気になります。トイレも古く、自動化されていないところもあります。校舎も老朽化しています。校舎の新築や改築と併せて、小中一貫や学校再編についてどのように考えているのか伺いたいです。

島村教育長：小中一貫教育とは少し離れますが、施設・設備については順次整備を進めてい

ます。本年度は百間中学校と東小学校で外壁工事を行いました。トイレも順次洋式化・乾式化を進めています。須賀小学校については新校舎を建設する予定です。学校再編については平成20年から議論を始め、審議会で一定の方向性がまとめられましたが、地域の皆様の思いもあるため、現在は一度立ち止まっています。また、当時と現在では児童生徒数も変化していますので、今後の推移を見ながら改めて検討していきます。地域部活動についてはさまざまな形があるため、現在整理を進めています。他地域の成功事例も参考にしながら、保護者の皆様にも理解していただける形を模索しています。場合によっては、保護者の方にも会議に参加していただくことを考えています。

木村副委員長：どの学校でも先生方の交流が増えていると感じています。子どもたちの交流だけでなく、教員同士が子どもたちの情報交換をすることで、お互いにとって有益な取組になっていると思います。挨拶についても、どの学校でも力を入れています。挨拶は大人になってからもコミュニケーションの基本ですので、引き続きその大切さを伝えていただきたいと思います。また、人の方を向いて話を聞くことや、他人の意見を受け入れることなど、子どもたちが人を思いやる心や豊かな心を育てていくことが大切だと感じています。近年は生成AIなどの技術が進み便利になりましたが、使い方によっては人を傷つけることにもつながります。使い始めの段階から危険性とともな倫理観や思いやりの心など、心の教育にも力を入れていただきたいと思います。1年間ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。

6 その他

事務連絡

7 閉会